

週日の説教

金 大烈 神父 2010年10月29日(金)

《後悔しないために・・・》

ある医師が、診察に来る患者を見て憐れみの心を持ちました。病気になってから病院に来るのでは遅いので、病気を予防するための知識を与えたらどうかと思い、講演会を開くことにしました。講演会には、いろいろな人々が集まりました。何年か経ってからその医師は、どのような人が講演会に参加しているのか気になり、アンケートに参加者の状況を書いてもらうことにしました。この医師が講演を行うようになった理由は、“人々が病気にかかる前に予防をすることで、健康に生きられるようになってほしい”と思ったからでした。しかし調べてみると、講演会に参加するのはもともと健康に気をつけている人か、もうすでに病気になってしまった人ばかりでした。喫煙や飲酒、運動不足など、病気になる可能性のある人に講演を聞いてほしいと思ったのに、そういう人は講演会へ参加しません。

信仰も同じです。もちろん中には本当にがっかりしていて、希望が見えなくて教会に来る人もいます。しかし教会に来る人のほとんどは、普段から信仰生活をしていて、救いの道を歩もうと熱心にミサに与っている人です。司祭から見て、教会に戻ってやり直してほしいと思う人は、言い訳をして教会へ来ません。「時間がなくて忙しい。」とか、「経済的に苦しくて日曜日も仕事を休めない。」などの言い訳をします。しかしよく考えてみれば、一生懸命に信仰生活をしている人でも、ほとんどの人は忙しくて、時間のない人です。以前ミサで話したことがあります。忙しい人ほど時間があって、いろいろなことができ、忙しくない人ほど時間がなくて何もできないものなのです。信仰もそういうものだと思います。そういう意味では皆さんは幸せです。その幸せを人々にも伝えてください。

今日の福音(ルカ 14・1-6)では、ファリサイ派の人々がイエス様から叱られています。ファリサイ派の人々は、いつもイエス様から叱られているのです。彼らの特徴は、自分が何でも知っているから問題はない、と思う傲慢さです。そしていつもイエス様から叱られて、言い返せない状態になるのです。

もう一つ面白い話をします。しばらく前(2009.9.18)にも話したことがあるのですが、人間は死ぬ前に3つのことで後悔するのだそうです。その話を今日の福音を読んで思い出しました。

一つ目は、「もう少し我慢をして、人に譲ってあげればよかった。」ということです。

二つ目は、「もう少し施せばよかった。」です。“人にあげることを惜しんでしまい、あげられなかった。”と後悔するのです。

そして三つ目は、「もっと幸せに生きればよかった。」です。“もっと余裕を持って生きれば人生を楽しめたのに、いつも焦りばかり、不満ばかりで生きてしまった。”ということです。

私たちは、死ぬ時に後悔しないために、生きている今、後悔しないように頑張らなければいけないと思いました。

ありがとうございました。